

【学 年】 4年 【教科・単元名など】 国語「新聞記者になろう」、総合「テーマ決め」

【実践内容】

単元について

国語科「新聞記者になろう」:新聞の役割やつくり方に興味をもち、身近な出来事取材して伝える。
 総合「テーマ決め」:自分たちが達成したいテーマについて、目標、方法、計画、広げ方を考え、伝える。

取り組み

国語科「新聞記者になろう」は、身近な出来事取材して新聞記事を作る学習であるが、子どもたちにとって、「身近な出来事」、「伝えたい出来事」を探すのは容易なことではない。そこで、「見学してきた消防署のことを伝える」、「自分のクラスや学校のすごいところを伝える」、など、ある程度、伝えるべき出来事を焦点化することで、子どもの「伝えたい」という思いを引き出すことができると考えられる。

今回は、比較的意欲の高い、総合的な学習の時間の年間テーマ決めと合科的に扱い、自分たちが達成したいと思っているテーマについての新聞を作っていくこととした。

学習内容

目標:達成したいと思っている総合テーマのよさが伝わる新聞を作る。

実際:書籍、インタビュー、インターネットなどを用いて自分なりに取材をし、個人新聞かグループ新聞のどちらかを作成する。

グループ新聞は、模造紙をグループ人数分割り付けをして切り離し、個別に作成する。個人の記事が完成したら張り合わせる。

知的好奇心について

新聞づくりにおいて、自ら取材をし、自分なりにまとめ、記事を書いていくような態度(知的好奇心?)を引き出すには、「伝えたい」、「伝えねばならない」という話題・出来事との出会いの演出がカギになると考えた。そこでいろいろ考えた挙句、今回の総合のテーマに行きついた。



【子どもの様子・考察】

《児童の様子》

子どもたちは、自分の達成したい総合テーマへの想いが比較的高かったため、積極的に取材や記事づくりに取り組んでいた。

テーマ(活動)よさや概要が伝わる必要があるため、所謂、取材したもの(文章)のまる写しのような記事は少なかったように感じる。

例えば、「体力増強」グループでは、速く走るための練習方法取材し、実際に試し、練習前と練習後の50m走のタイム比較を載せるような記事があった。

また、取材や記事づくりをする中で、総合テーマとして1年間続けていくことや、活動自体の意義を高めていくこと難しさを実感した児童もいたようである。

《考察(成果と課題)》

全体的に、高めの意欲を保ちながら単元を進めることができた。しかし、結局は総合テーマへの意欲と直結しているため、総合テーマ決めへの意欲に依存していることになる。やはり一部には、

総合テーマへの意欲が低くなってしまっている児童や、総合テーマにふさわしいのはどのようなテーマなのか自体がよく理解できていない児童がいたことも否めない。

題材・話題を絞り込む段階で、総合テーマ以外への変更ができるようにすると広がるかもしれない。

